

①ディレクトフォース

ディレクトフォースでは非常に刺激的な話を聞くことができた。その中でもいくつかの印象的だった話を書いてみたいと思う。

ひとつめは山田正美さんという方が言っていた国による保険の意識の違いだ。日本は災害が他の国に比べてとても多い国で、そのせいか災害がきてしまったら受けるしかないという少し諦めの念が日本人の根底にはあるそうだ。それは「地震雷火事親父」ということわざにもあらわれている。一方でアメリカなどはもっとも危険で怖いことに保険をかけるという考えが一般的であるそうだ。この話を聞いて単純に面白いと感じた。それぞれの国民性がそのまま保険という制度に対する考え方に影響されているのだ。当然のことだが海外で仕事をする時はどの分野でもその国に合わせたビジネスが大事なのだらうなど感じた。

二つ目はひとつめと同じ山田正美さんによる米・英・オランダでの経験を元にした 3 カ国の大きな違いだ。3 カ国の中で他の国と大きく違うのはオランダだそうだ。オランダ人はとても実用的な考え方をしているそうで、マリファナ・大麻を例に話してくれた。オランダでは普通のお店で大麻などを気軽に買うことができる。始めに聞いた時はとても驚いた。それによってももちろん大麻を服用している人は多いそうだが、依存症になっている人やマフィアなどは他国に比べて圧倒的に少ないらしい。人間の禁止されるとやりたくなくなってしまうという抑えきれない欲をうまく活用しているのだと思った。

三つめは近藤玄太さんが言っていた一人一人の個人に合わせて商品を作るわけではない公共の建築を作るときにどんなことを意識すればいいかということだ。義手と建築、分野は違うがものづくりという点で共通点があることを学んだ。社会全体の経済状況、震災、世帯の形などのいろいろなものによって建築は変化していく。なかなか義手の様に個人に合わせてということには少ないだろうが、時代という単位で人々の生活に合わせていくことが大切なかもしれない。これは私がした質問の返答で、ひとりひとりに合わせた義手の制作をしている近藤さんにとっては正反対のことについて聞いてしまった。答えにくいだらうなど、思っていたがきちんと答えてくれた。

全体を通して、どの方も積極的に海外・社会と関わろうとしていてその姿が印象的だった。私も目の前にある小さな世界にばかり目を向けずに、海外などといった大きな世界に目を向けていきたいと思った。

②企業訪問

私は、世界的に有名な建築家である隈研吾さんが働いている事務所に伺うことになった。直接本人には会うことができなかったが、いつも隈さんと共に仕事を行っているスタッフの方々にたくさん話を聞くことができた。事務所を訪れた時の第一印象としては、自分が今まで経験したことがないような独特な雰囲気だった。まず、スタッフの日本人と外国

人の割合は6:4。事務所内では常に英語が飛び交う。海外の方も一緒に働いているのは予想していたが、ここまでかと驚いた。事務所内には、個人で設計などを制作するデスクスペースと実際の建物のCGを制作する大型のコンピュータがズラリ並んでいるスペース、模型制作するスペース、そして何人かごとに話し合うことができる机が置いてあった。なかなか他の企業では珍しいであろう話し合いのスペースが大きく占めていたのが印象的だった。お客さんの対応や業者との話し合い、スタッフどうしの話し合いにも使われるそうだ。実際わたしが訪問したときにもたくさんの話し合いが行われていたが、男女国籍年齢関係なく話し合われているのだ。その話し合いはひとりひとりとても真剣な眼差しで行われているのだから、なんだか楽しんでいるようにもわたしの目には見えた。みんなで試行錯誤して1つの大きな建築物を生み出す、それが建築の大きな魅力でもあるんだろうなと実感することができた。ある程度事務所を、見学させていただいた後は普段隈研吾さんが仕事をされているという部屋で質問に答えてもらった。

いくつか印象に残った話がある。まず建築の魅力について尋ねたときだ。建築は100年、200年、何千年も残っていく場合もある。その中で人の社会性を変えることができるかもしれない。街のコミュニティを変えることができるかもしれない。そんな無限大可能性を持っているということだ。実際に建築のに携わっている人だからこそわかることなのかもしれないと感じた。建築に携わっていると最も深く実感することは、建物は建築だけでなく他の分野と密接に関わっているということだそうだ。今まであまり、建築と他分野との結びつきについて考えてこなかったのでもとても驚いた。特に経済面はとてもシビアで、いくらこういうものをつくりたいと思っても、依頼者の予算や建物を維持していくだけの資金との兼ね合いが取れなければ思うように設計することができないそうだ。また、依頼者がシアタールームをつくりたいといえれば一定のサウンドの基準を満たしながらかつ他の部屋への音漏れについても考慮した設計を行ったり、会社のピアールを含めた建物を設計する場合は、ときに織物、酒の発酵、繊維ワイヤーなど企業の自社製品を使った構造を考えたりすることもあるらしい。その度にそのものの性質や他の資材とのバランスなど様々なことを勉強するそうだ。

他にも災害や防犯なども考慮しながら設計する。そんなにも複数のことを考えていると建築家ならば大事にしたいであろう独創性と安全性のバランスが難しいのではないかと考えた。そのことに尋ねてみたところ、安全性と独創性は絶対に並ばないと答えがきた。安全性は何よりも大事であり、安全性が確保された上でデザインをしていくそうだ。今の時代、ただただ派手で大きな建物をつくれればいいというものではないと本で読んだことがある。グローバル化が進んでいるので様々な文化の人々に対応した建築。環境と一体化した建築。様々な話を聞いたことがあるがこれからの建築家に求められる資質は何かを聞いてみた。今の建築家はグループを組んでやることが多いそうだ。そんな中で柔軟にいろんな分野を横断することができる能力、またsnsを効果的に利用していく力も大事だと言っていた。この高校生という大事な期間を使って様々な分野に興味を持ち、たくさんのもの

に触れていきたいと思った。

世界的に有名な事務所、そこで働くスタッフの方に接してみてたくさんのことを学ぶことができた。そして自分も憧れた。改めて将来建築に携わっていきたいと思ったのだ。せつかくこのような貴重な機会を与えてくださった二高の先生方に感謝して夢を叶えるために日々の勉強を頑張っていきたい。

③東京大学研修・二高 OB の方々のお話

東大=すごいという漠然としたイメージと、さんまの東大方程式という番組に出演している東大生のイメージしかなかった私は実際に東大に行ってみてより具体的に東大について知ることができた。東大の施設が整っていることや研究資金が他大学に比べて豊富だということは知ることができて本当に良かったと思う。FairWind の人達や二高 OB の方々の質問コーナーでは、主に勉強の仕方をたくさん知ることができた。私は、あまり記憶力がよくなく授業でやったことでもほとんど忘れてしまうことが多い。そうするとまたもう一度家で1から勉強しなければいけなくなり、非常に効率が悪い。1年生とはいえ受験まで時間はない。学校の授業を軽く見ず45分の中で覚えられることは覚えてしまう。わからないことは先生にすぐ聞いてさっさと解決させてしまう。勉強時間をいかに短くして集中するか。これらの東大生の方から聞いたお話を徹底して頑張りたいと思う。